



2014. 7月発行 No. 74
東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター
〒018-3201
秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添 24-3
Tel 0185-79-1003 Fax 0185-79-1005
e メールアドレス t-fujisato@rinya.maff.go.jp

ニホンジカ、入山規制緩和に意見が集中

5月30日（金）秋田県側の平成26年度第1回白神山地世界遺産地域巡視員会議が八峰町文化交流センター（ファガス）で、ボランティア巡視員、関係機関45名が参加し開催されました。

はじめに主催者を代表し、東北森林管理局計画保全部長より挨拶があり、その後ボランティア巡視員に委嘱状が交付されました。

続いて議事に移り、関係機関から平成26年度の白神山地世界遺産地域及びその周辺における事業計画などの説明が行われ、質疑に移りました。

今年度は近年全国的な問題となっているニホンジカの生息区域拡大について、質疑が集中し、地元猟友会からは「遺産登録以降遺産地域内での狩猟を行っていないので猟友会メンバーも山がわからなくなっている。ニホンジカの情報があれば、こちらにもいただきたい」と意見がありました。事務局からは、環境省や東北森林管理局がセンサーカメラを白神山地周辺地域に設置し、生息地域の把握に努めること、生息が確認された場合には、科学委員会の助言を踏まえ地域連絡会議で対応を検討することが説明されました。

午後の部では、秋田県側核心地域へのモデル的な入山利用にかかる意見交換会が行われました。東北森林管理局からは、パブリックコメントで入山規制の緩和を求める声があることや、科学委員会での議論について説明されました。巡視員からは、「核心地域の情報がほとんど入っていない中で白神山地を管理していると言えるのか」「ルールを守って、ガイド付きであれば将来にわたって維持できる」と見直しを求める意見と「バッファゾーンをもっと活用してからコアの話をすべき」「絶滅しそうなイヌワシ、クマゲラの議論を抜きに入山規制緩和の話にはならない」と現状維持を求める意見が出されました。東北森林管理局では、これらの意見を踏まえ、科学委員会や地域連絡会議で継続した議論を行い、白神山地の入山規制緩和について話し合っていきたいとしています。



八峰町文化交流センター（ファガス）

水無沼を楽しみながら探検

6月4日（水）藤里町立藤里幼稚園の年長組11名と、白神山地世界遺産センターで世界遺産白神山地の事前学習を行いました。児童たちは、展示されている白神山地の生き物の剥製や模型を利用した、昔話に出てくる動物探しや、400年ブナの高さ当てなどを行いゲーム感覚で楽しみながら学習しました。

6月6日（金）岳岱自然観察教育林には、昨年の豪雨災害により行けないため、ブナなどを観察できる民有地の水無沼で探検をしました。児童たちは、「葉っぱビンゴ」をしながら、ブナなどの樹木について学習し、ミズ、フキ、ウドなどの食べられる植物の話、森に隠してある人工物探し、沼にいるタニシの観察を楽しみながら学習しました。

その後素波里園地に移動し、昼食をしてから葉っぱを使った「貼り絵」を作りました。児童たちの中には三枚も貼り絵を作る子や、細かく切った葉で「切り絵」を作る子もあり、それぞれに個性のある絵が完成しました。最後に完成した「貼り絵」を持ち寄り記念撮影をして、今年度最初となる森林教室を無事に終えました。



貼り絵を持って記念撮影

ニホンジカ侵入経路、林道等広範囲に設置



センサーカメラ設置の様子

近年全国的にニホンジカの生息数が増え、北東北においても岩手県から青森県・秋田県へ生息域を拡大してきています。

白神山地世界遺産地域周辺においてもニホンジカを目撃情報があることから、環境省と東北森林管理局では、ニホンジカの監視と中大型ほ乳類の生息状況モニタリングの一環として、秋田・青森両県で65基のセンサーカメラを設置する予定です。（秋田県側は、東北森林管理局が23台、環境省は2台の計25台設置の予定です。）当

センターのセンサーカメラは、白神山地世界遺産地域へのシカの侵入経路となりそうな林道等に広範囲に設置することとして、国有林内に15台、民有地には、能代市、八峰町、藤里町の協力を得ながら8台を設置しています。